

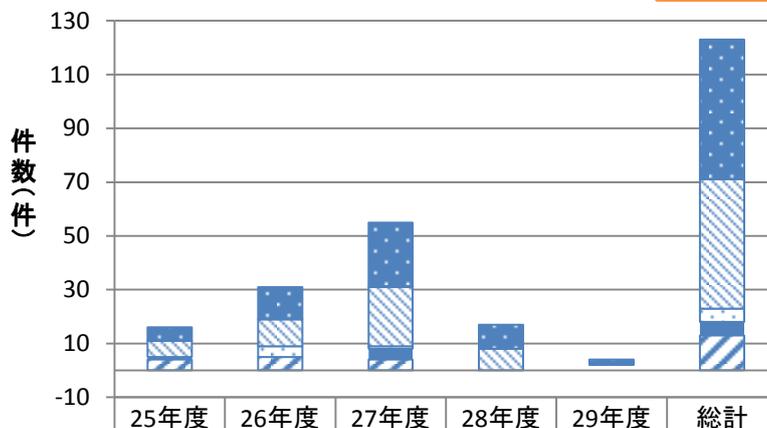
東京都胎児救急搬送システムによる搬送事例の状況

平成25年11月1日から平成29年12月31日報告受理分 123件

1 要請理由

- 常位胎盤早期剥離、早産期の胎児機能不全を要請理由としたものが、約8割であった。

n=123(母体)



	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	総計
■ 常位胎盤早期剥離	5	12	24	9	2	52
▨ 早産期の胎児機能不全	6	10	22	8	2	48
▩ 常位胎盤早期剥離・早産期の胎児機能不全	0	4	1	0	0	5
■ 正産期の胎児機能不全	1	0	4	0	0	5
▨ 無記入	4	5	4	0	0	13

2 ブロック別件数

- 約8割の事例がブロック内の医療機関で受け入れられていた。

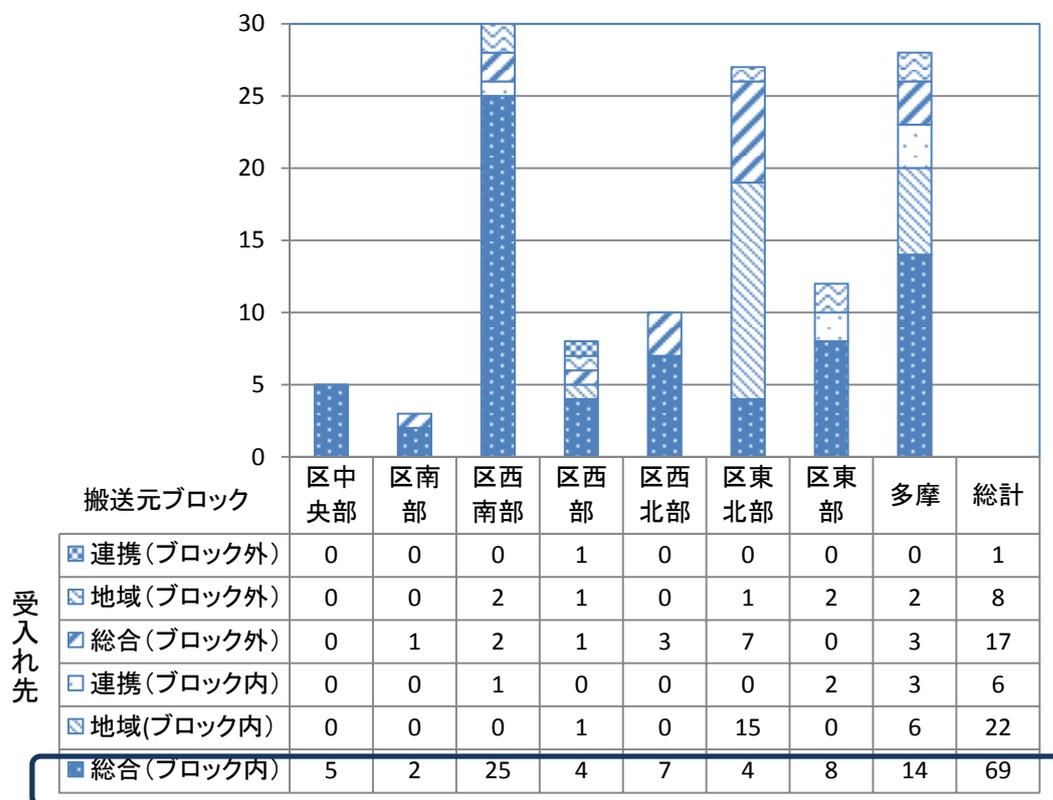
n=123(母体)

依頼元ブロック	区中央部	区南部	区西南部	区西部	区西北部	区東北部	区東部	多摩	総計	
依頼件数	5 100%	3 100%	30 100%	8 100%	10 100%	27 100%	12 100%	28 100%	123 100%	
受入先ブロック	区中央部	5 100%	0 0%	1 3%	0 0%	1 10%	2 7%	1 8%	0 0%	10 8%
	区南部	0 0%	2 67%	2 7%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4%	5 4%	
	区西南部	0 0%	1 33%	26 87%	2 25%	0 0%	0 0%	2 7%	31 25%	
	区西部	0 0%	0 0%	1 3%	5 63%	0 0%	0 0%	2 7%	8 7%	
	区西北部	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	7 70%	1 4%	0 0%	8 7%	
	区東北部	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 20%	19 70%	1 8%	22 18%	
	区東部	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	5 19%	10 83%	15 12%	
	多摩	0 0%	0 0%	0 0%	1 13%	0 0%	0 0%	0 0%	23 82%	24 20%
ブロック内受入	5 100%	2 67%	26 87%	5 63%	7 70%	19 70%	10 83%	23 82%	97 79%	

3 受入れ病院種別

○ 約6割の事例がブロック内の総合周産期センターで受け入れられている。

n=123(母体)



4 母の年齢

○ 30代が87例で約7割を占めている。

n=123(母体)

	人数	割合
19歳以下	1	0.8%
20～24歳	5	4.1%
25～29歳	21	17.1%
30～34歳	45	36.6%
35～39歳	42	34.1%
40～44歳	9	7.3%
45歳以上	0	0.0%
合計	123	100.0%
不明	0	

平均値 33.0 歳
中央値 33.0 歳

5 妊娠週数

- 要請時の妊娠週数は22週から42週までに分布していた。
- 37週未満が約87%であった。

n=123(母体)

	人数	割合
37週未満	106	86.2%
うち34週未満	71	57.7%
37週以上42週未満	16	13.0%
42週以上	1	0.8%
合計	123	100.0%

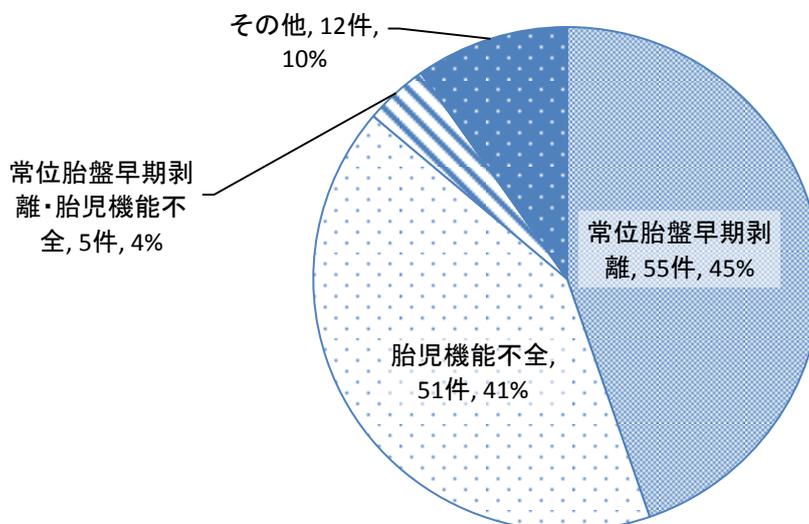
平均値 31.9 週

中央値 33.0 週

6 疾患名

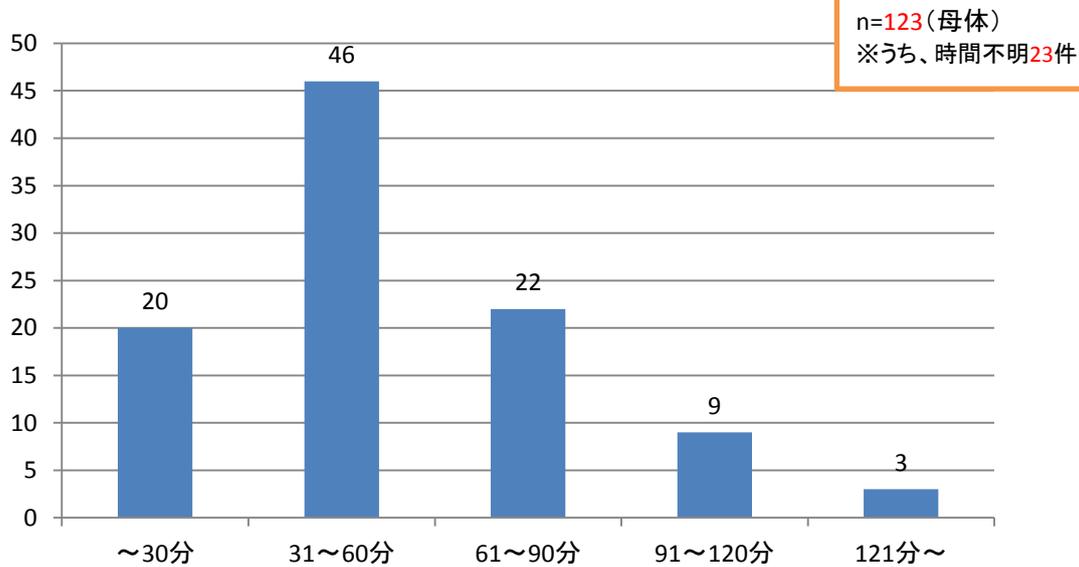
- 搬送受入れ後の診断名は常位胎盤早期剥離が45%、胎児機能不全が41%であった。
- その他は12件で、子宮内胎児死亡、一過性胎児除脈、胎動減少、足位の陣発・排臨、切迫早産などであった。

n=123(母体)



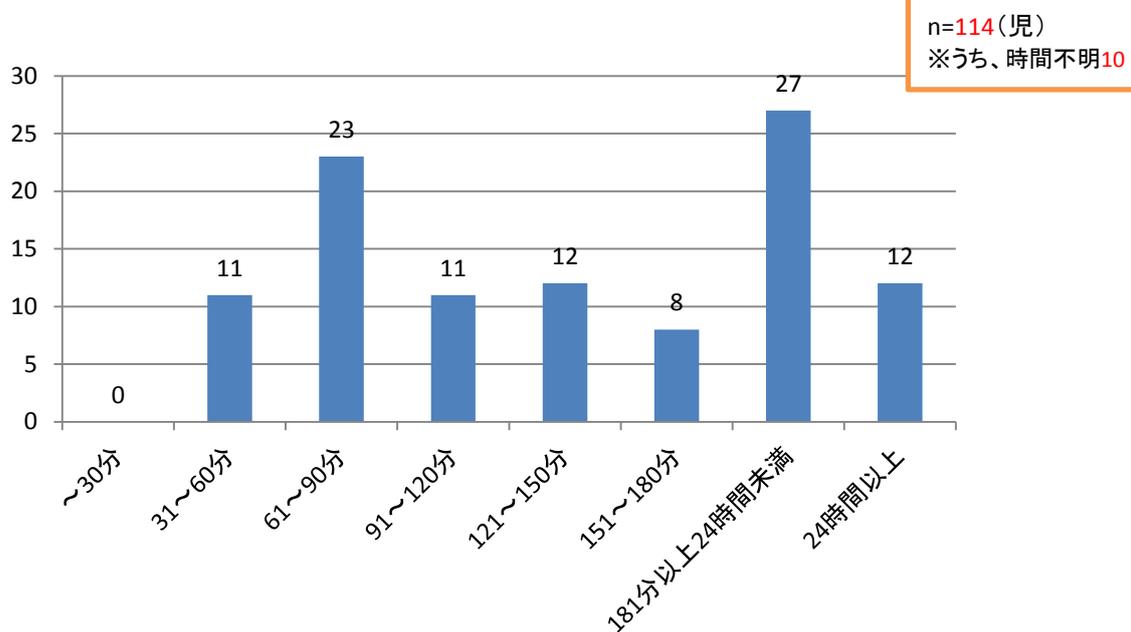
7 病着までの時間（要請から病着まで）

- 搬送要請時刻と病着時刻が分かっているのは100件であった。
- 100件の病着までの時間の平均は56分、中央値は53分であった。
- 100件の病着までの時間の最小値は17分、最大値は3時間48分であった。



8 分娩までの時間（要請から分娩まで）

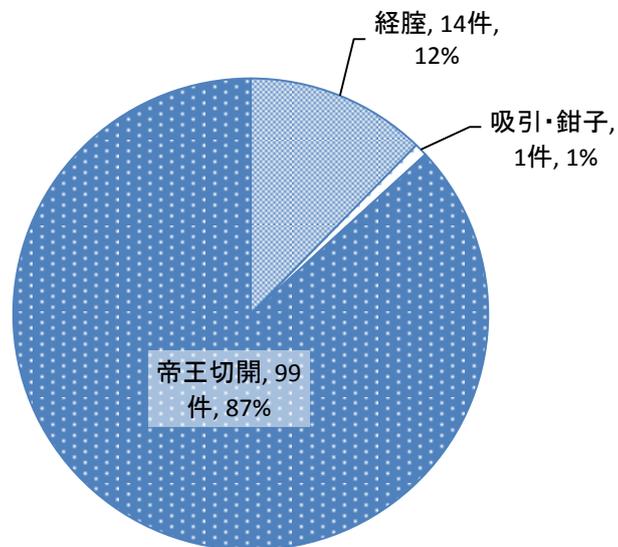
- 搬送要請時刻と分娩時刻が分かっている104件中、搬送要請から24時間以内に分娩となったのは92件であった。
- 92件の分娩までの時間の平均は3時間12分、中央値は2時間6分であった。
- 92件の分娩までの時間の最小値は40分、最大値は23時間53分であった。



9 分娩様式

- 分娩様式は87%が帝王切開であった。
- 経膣分娩のうち、死産が5件であった。

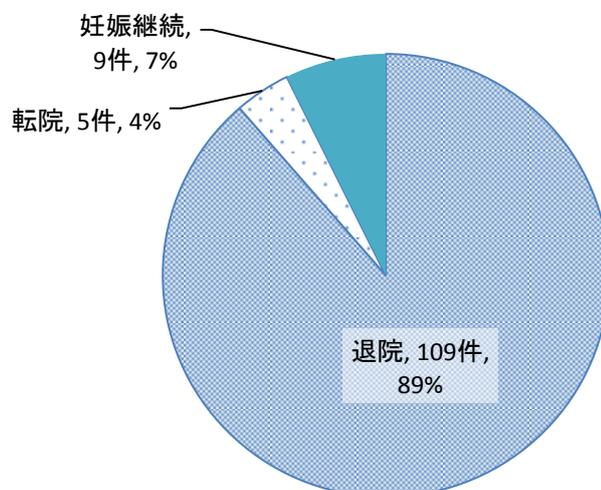
n=114(児)



10 母転帰

- 母の転帰は89%が退院であり、死亡したものはいなかった。

n=123(母体)



11 出生体重

- 出生体重は267gから3598gまでに分布していた。
- 出生体重の平均は1754.7gで、中央値は1,621.0gであった。

n=114(児)

	人数	割合
1000g未満	20	17.5%
1000~1499g	29	25.4%
1500~2499g	44	38.6%
2500g以上	20	17.5%
不明	1	0.9%
合計	114	100.0%

平均値 1754.7 g
中央値 1621.0 g

12 アプガー

- 5分後アプガースコア4点未満は13人(12%)、7点未満は32人(29%)であった。

n=114(児)

アプガースコア	1分後		5分後	
	件数	割合	件数	割合
0点	10	8.9%	7	6.4%
1点	11	9.8%	3	2.7%
2点	10	8.9%	1	0.9%
3点	6	5.4%	2	1.8%
4点	10	8.9%	2	1.8%
5点	6	5.4%	8	7.3%
6点	6	5.4%	9	8.2%
7点	8	7.1%	13	11.8%
8点	33	29.5%	14	12.7%
9点	12	10.7%	44	40.0%
10点	0	0.0%	7	6.4%
	112	100%	110	100%

Ap1(挿管1、死産1)

Ap5(挿管1、不明1、死産2)

13 臍帯動脈血pH

- 臍帯動脈血 pHが不明の児及びIUFDの児を除いた出生児95人の臍帯動脈血 pHは、6.594から7.520までに分布していた。
- 平均は7.227、中央値は7.280であった。

n=114(児)

	人数	割合
pH7.00未満	12	12.5%
pH7.00以上7.15未満	10	10.4%
pH7.15以上	74	77.1%
合計	96	100.0%
不明	11	-
IUFD	7	-

平均値 7.227
中央値 7.280

14 児の転帰

- 児の転帰は退院が97人(85%)、転院が5人(4%)であった。
- 死亡した11人は、IUFDが7人、その他4人であった。

n=114(児)

